



栄光園だより

第99号

2015年4月30日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
振込口座 01930-2-20748
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

栄光園での生活が誇りになるとき

児童養護施設 江口 敏一

毎日、屈託のない明るい顔で元気に学校に通う子どもたちの中に、栄光園の門をくぐって帰ってきたくない、普通の家の玄関でたいたいと言いたいという小学生がいる。近隣の家庭から栄光園に来た子どもの中には、門を出るときに知っている人と顔を会わせたくないというので大幅な遅刻で通学したいという子もいる。卒園児の中には、高校の3年間、栄光園の子と思われたくなくて、手元にお金が入ると気前よく振舞っていつべんに使ってしまう子もいた。

これらの児童の養育で私たちは蹟く。「職員は自分たち子どもの立場を経験していないから理解できないのだ」という子どもの嘆きや悲しみ、苦しみやあきらめに対してすべがなく、寄り添う

難しさに直面するのである。栄光園の依って立つ児童福祉法の成立は70年前の第2次世界大戦の結果である。

敗戦の結果、国民の大部分が貧困にあえぎ、子どもたちは戦地から戻ってこない父親や空襲で失った母親のために戦災孤児と呼ばれて社会に放り出され、戦地から戻ってきた兵隊さんは傷痍軍人と呼ばれる身体障害者となつて白衣と募金箱を持って路傍に立つことになった。このために生活保護法・児童福祉法・身体障害者福祉法が急きよ整備されて福祉三法と呼ばれた。戦争のため・国を守るための被害者となったこれらの福祉法の対象者である彼らは、自分の行為に非がないにも

かわらず憐れまれるべき存在となつたのである。憐れむ立場とその対象である憐れまれる立場の違いは、小さな子どもでも理解できる。

子どもたちの中には栄光園での生活を否定的にとらえる子がいるということでもある。栄光園での生活が負の感情を生むのではない。施設で生活している子どもたちに対するステレオタイプな(型にはまった考え方をする)世間の目、日本の社会のこの子どもたちに対する否定的な周囲の反応が、差別から差異、そして排除へと向かうのであればそれを乗り越えねばならない。

歴史的な事実で教えられるのはアメリカでの黒人の社会的地位向上に対して、キング牧師などの偉大な人々の力もあるが、ソーシャルワーカーの試みがい出しされる。就学年齢になった黒人の子どもに対して、体験入学のプログラムを実施した結果、学校について居心地のよいところだ、学ぶって素敵なことだ、就学意欲が高められたというのである。大人の偏見を

超えて、子ども同士では容易に受け入れあったのであろうか。それが、小学校・中学校・高等学校・大学と伸びていった。学力の向上と比例して、社会的地位も高まり、世間も受け入れ、今では前のライス国務長官や現オバマ大統領が活躍しているのは周知である。

振り返って、今いる子どもたちへ如何に対応するか。子どもたちの学力を高め、卒園後の大学等上級学校への進学を支援することの効果も期待したい。想像を絶するような困難な幼少期の家庭環境を経て、栄光園へ辿り着いている子どもたちが、家庭的な環境の下での子ども同士や職員との触れ合いを通して、同時に、毎週欠かさず学習指導して下さるボランティアの方々、在日の外国人やAPUの学生さんたちとの継続した暖かい交流を通して、多くの方たちの情熱に心動かされ、信頼関係を育まれて、やっと前向きに取り組む姿勢が生まれてくるのである。その結果、視野が広がり、学ぶ意欲が高められ、以前には想像できなかったような積極的に学習に取り組む姿勢が見られるようになった。彼らが社会で活躍することが、彼らの社会的地位を高めることにつながる、それによって初めて、栄光園での生活が誇りとなり、負の感情を克服する道へとつながるにちがいない。



児童養護施設

マツモトホームの行事食

保育士 若杉 忠志



マツモトホームは幼小児の男女混合棟で、小学男児2名、女児1名、幼稚園女児3名のホームです。昨年度は「食事マナーを促されずに意識できるようになる」「簡単な調理に興味を持ち、調理法を知り、食材に触れることを楽しむ」を食育目標に掲げ取り組んできました。

季節の行事としては2月には節分に豆まきをし、恵方巻をいただきました。節分は季節の分かれ目で年に4回ある

のですが、春を待ち望む強い思いが2月に「節分」として残ったのでしょうか。節分の夜に豆をまいて邪気をはらい、無病息災を祈る行事は栄光園でも伝統行事です。鬼に扮した職員がホームに来ると一斉に逃げ回ったり泣き出した子もいました。「もう悪いことしません」と言ったりする子もいる一方で果敢にも豆を投げつける子どももいました。この日の夕食は恵方巻でした。関西で生まれたともいわれるこの習慣は恵方(吉の方位)を向いて食べると願いがかなうというものです。子どもたちはどんな願いを込めて食べたのでしょうか?日ごろの会話からは、お母さんと一緒に過ごしたいとの思いが伝わってきますが…。

3月1日「卒園生を送る会」では、様々な出し物をしたあと、オードブルで好きな物をお腹いっぱいいただきました。普段食べることのできない食材、特別にお刺身は集団給食の献立では少ないので大人気でした。送られる卒園生の思いを超えて皆食べる方への関心が高いようでした。

また3日の「ひな祭り」にはちらし寿司とひなあられをいただきました。ひな祭りは女の子の幸せを祈る行事で、「桃の節句」「上巳の節句」などとも呼ばれています。起源は平安時代の上流階級の女の子が、小さな男女の人形で遊んだ「ひいな遊び」などで、ひな人形などの調度品を飾る風習は室町時代に生まれ、江戸時代の初めに、五節句のひとつとして女の子の健やかな成長を祝う節句となったそうです。ひなあられの3色は

「あなたの民はわたしの民。あなたの神はわたしの神。」

ルツ記1章16節

青山保育所 小久保次郎

ルツは、旧約聖書の中で有名な女性です。彼女は夫と死別した後、姑のナオミと一緒になり、ナオミの故郷へ一緒に行きます。ルツは、モアブ人で、姑はユダの人ですから、ルツは外国人ということになります。落穂拾いをして姑を食べさせ、細々と二人で生きていました。しかし、ボアズという姑の縁続きの人が、ルツの姑への献身的な働きを見て、彼女を妻にします。彼女は子を産み、その家系からダビデという後の王様が生まれます。外国人への蔑視は、昔も今も変わらぬ現実です。かつて、私の経験したことです。アメリカで白人の小さい子どもからチンクと私は言われました。何の言葉かわからなかったのですが、帰国してからアメリカ人宣教師に、そのことを尋ねますと彼は顔をしかめました。そして、アメリカでは様々な外国人への蔑称があることを重い口を開いて、語ってくれました。チンクとは中国人のこと、ポラックはポーランド人

のこと、等々です。イエス・キリストの家系には、外国人の血筋が混じっている。そのことを聖書は、旧約聖書を通して語っています。異質な者を受容するという温かい愛が聖書にはあふれています。1941年、日本が戦争を起こし、敗戦となった時、在日米軍人と日本人女性との間に生まれた子どもは、混血児と呼ばれました。別府でも混血児の救いが緊急の課題でした。差別との戦いは勇気が要ります。見て見ぬふりをするのは、誰でもできますが、そこに立ち上がるのが神の愛です。弱き立場の者への軽視、蔑視、その克服への戦いは私たちに与えられている今も続いている大きな課題です。ルツは姑の属する世界へと同化を自らしようとします。自ら他者との一致を見出そうとする勇気を神はルツに与えました。私たちも神様から全てを受容し、愛する力を与えられています。本当に感謝です。

緑・白・桃色とあり、緑は健康、白は清浄、桃色は魔除けの意味があるとも言われています。マツモトホームの子どもたちも男女を問わず職員の作った美味しちらし寿司をいただき、ひなあられを食べそれぞれ健康を祈ったことでしょう。このように季節の変化をめ、楽し

み、喜び、感謝する様々な行事を通じて、食に対する興味が湧き、食欲増進、成長に繋がると良いと思っています。生き方を豊かにするためにも引き続き食育を進めていきます。



ボランティアによる 学習支援

公立高校の合格

児童指導員 大野 将也

ウエストホームでは、ある中学3年生が公立高校を受験、合格しました。

彼は一昨年暮れ、中学2年時に栄光園での生活を始めました。これまで学習習慣はほとんど無かったのですが、高校受験を間近に控えて、毎週土曜日、学習ボランティアの安東先生・井上先生の学習指導を受けることになりました。

先生方は、彼のレベルに合った参考書や問題集を用意し、学習意欲を高めるためにも、ご自身の経験談等をお話され、彼自身の頑張りも大いに認め、時には食事にも連れて行って下さり、学習指導の枠を超えた支援をして頂きました。その結果、彼の学力はみるみる上がっていき、十分に公立高校を狙える程の学力が付いていきました。

そして、彼は見事に市内の県立高校の合格を手にすることができました。この成果は、彼の頑張りももちろんのことですが、学習ボランティアの安東先生・井上先生の手厚い学習支援があつたものだと思います。

彼の県立高校合格は、日頃の子どもの養育に携わる我々職員との出会いを超えて、新鮮な思いで子どもたちが出会うボランティアの方々、それを温かいまなざしと熱意で受け止め、導いて下さるボランティアの皆様の成果だと思

うのです。「人生は出会いである」とつくづく感じるとともに、子どもたちによい出会いをもたらすコーディネート力も私たちの専門性としてとらえなければならぬと改めて感じました。

子どもたちの中には、学習面で課題を抱えている児童も多いのですが、ボランティアの方々を始め、様々な人の支えを受け、少しでも子どもが自分の夢に近づくことが出来るような支援をした

羽ばたけ未来へ 卒園生を送り出して

ウエストホーム 原田 康子

この3月、ウエストホーム、キャサリンホームから2人の若者が巣立っていきま

した。栄光園で過ごした18年間は、多くの仲間たちと楽しく過ごした思い出と、それぞれの生い立ちと向き合いながらの様々な思いが詰め込まれたものだったことでしょう。そんな中でも、素直に成長した子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年は、4名の卒園生を社会に送り出しました。その際の彼らの自立に向けての活動などを見ながら卒園前の1年間にどんなことをしなければいけないのかをうつつすらと感じ取っていたようですが、それでもなかなか実感の伴わないものでした。しかし、昨年4月、高校3年生になって卒園までの期間が1年という頃になってやっと独り立ちをしなければいけないという切実な思いが湧いてきたよう

です。特に、就職活動の際には、挫折感なども味わいながら、社会の厳しさを初めて

実感し、社会に出ることに対する不安も膨らんできたと思

います。しかし、それぞれの子どもたちが様々な経験を通して精神的に大きく成長しま

した。社会の方々にて育てていただいた部分がとても大き

く、社会資源の活用の有効性を実感いたしました。子どもたちを受け入れ、育ててくださった学校関係、行政機関、企業やボランティアの方々など社会の

皆様

に感謝いたしております。これまでに数多くの卒園生が社会へ巣立ってまいりましたが、卒園後も様々な問題に直面し、まだまだ支援を必要としているのが現状です。そのような



課題に対し、新たに専門職として職業指導員を配置し、直面する様々な問題を卒園生と一緒に解決していきながら本当の意味での自立を目指し支援を行っております。

これからも子どもたちが心身ともに健やかに育つような養育環境を整え社会へ大きく羽ばたいていけるよう支援していくと共に、卒園後の自立を支援するアフターケアにも力を注いでまいります。

子どもたちを社会に送り出していく際、社会の方々のご支援がとても大切なものであることを痛感いたしております。皆様のご協力をいただきながら本当の意味での自立した生き方に繋がってほしいと思っています。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

また、栄光園が、巣立っていった卒園生にとつて気軽に帰って来てゆつたりと過ごせる暖かな場所となるよう職員一同精進してまいります。どうぞご理解、ご支援賜りたく存じます。



卒園記念植樹

乳児院

大きな桜の木の下で

ぽかぽかと暖かい春の日差しの日を
いっぱい浴び、栄光園のグラウンドでピ
クニックをしました。

ひらひらと舞う桜の花びらの下でい
ただくお弁当はいつもより何倍もおいし
くて、みんなパクパクよく食べていまし
た。ピクニックのメニューは、おにぎり、卵
焼き、ブロッコリーマヨ焼き、花グラッセ、
そしてデザートのおどろゼリーでした。
お弁当箱の中が空っぽになりました。
が、みんなのお腹はいっぱいでした。
ごちそうさまでした。



新しく三輪車が やってきました!!



新しいおもちゃと分かった途端、次々
と寄ってきて「なんだらう」と見たり触つ
たりしていましたが、乗って遊ぶものと
分かれると次々に降り始めていました。
新しい三輪車は座面が低く、ペダルが
無いので乗り降りしやすく、一歳過ぎ
の子どもたちでもまたがると地面に
しっかりと足が着くので動かせます。

乗った子たちはよちよち歩いて移動
し、ニコニコ笑いながら自分で動かせる
喜びを味わっていました。
いろいろな所に動かして行きながら、ア
ンパンマンの壁面を見つけ指差ししなが
ら「アーパン」と言って楽しんだり、ハ
ンドルを左右に振って見たり、時には
バックして見たりと新しい三輪車で思
いっきり体を動かして遊びました。



青山保育所

おせち料理



年明け、給食でおせち料理を頂きま
した。メニューは松風焼き・紅白なま
す・紅白かまぼこ・田作り・みかん
でした。子どもたちは食事をしながら
「これなーに?」と食材を聞く姿が見ら
れました。聞いた後は「松風焼きおいし
い」とおともだちや保育士と楽しくお
話をしながら上手にフォークや箸を使っ
て満足そうに食べる姿がありました。



こわかったけど やっつけたよ



先日、青山保育所で豆まきがありま
した。当日までに鬼のお面を作ったり、
豆まきの歌を歌ったり、「おにはそとく

ふくはうち〜」と豆まきの練習をして
いた子どもたち。いよいよ当日、ついに
その鬼がやってくる、保育士の後ろに
隠れてしまう子、泣き出してしまおう子、
勇敢にも豆をまく子とその姿はさまざ
までした。鬼を退散して落ち着いてか
らはどの子もほっとした様子で「おに
やっつけたな〜」と嬉しそうにしていた
子どもたちでした。

豆まきランチでは、鬼バグ(ハンバー
グ)として再び登場した鬼でしたが、子
どもたちは見事食べて鬼をやっつけた
のでした。節分は子どもたちにとって
は怖い行事ではありますが、1年間の
無病息災を願うときでもあります。日
本の伝統行事としてこれからも大切に
していきたいものですね。



バレンタイン クッキング

4歳児

バレンタインが近づいてきたころ、4歳児はチョコレート作りをしました。簡単な調理工程だったので、難しくなく楽しく作れ、出来上がった可愛らしいチョコをとても美味しそうにほおぼっていましたよ。中にはレシピや材料を覚えておりお家でお母さんと一緒に作ったとの声も聞かれました。



頑張ったね発表会

2月に発表会が無事に終わりました。朝からいつもと違う雰囲気戸惑



いを感じている子、気持ちが高ぶっている子とさまざまでした。舞台上でも練習のままに生き生きしていた子や、戸惑いを感じながらもその子なりに頑張っていたりといろいろな姿を見るのが出来ましたが、大勢の観客の前でも立派にやり遂げることが出来たことは本当に素晴らしいと思います。1年前とくらべてずいぶん成長した姿を見て頂けたのではないかと思います。発表会が終わってからは、やり遂げて嬉しそうなお家の人にとくさん褒められて満足げな子どもたちでした。保護者の皆さんには、たくさんのご理解、ご協力をいただき本当にありがとうございます。

言葉の大切さ

大分県保育事業研究大会に参加しました。記念講演は大正時代末期から昭和初期に活躍した童話詩人・金子みすゞ 記念館の館長さんのお話でした。

主に子どもたちに昔からある童謡をたくさん聴かせてあげましょうというお話と言葉の大切さについてのお話でした。

共働き・核家族が多い現在では生活サイクルが大人中心になることは仕方がないことです。しかし、子どもに対する言葉掛けに気をつけるだけでも子育てが違ってくるのではないかと。子どもが転んでも「痛くない!」「泣かない!」などの言葉を大人が発してしまいう前に、まずは子どもが転んでしまったこと、痛みなどに共感する気持ちを持つだけで、掛ける言葉は変わってくるだろうとおっしゃっていました。

家庭の子育てでも言えることです。が、もちろん日頃の保育の中でも大いに言えることだと感じました。保育の配慮の中にも「子どもに共感する」という言葉は必ず入ります。慌ただしい日々の中でも子どもの気持ちや言葉などに共感できる余裕を持っていたいものです。



野口保育所

新しい年度が始まりました。今年度も職員一同身を引き締め、資質向上を目指し子どもたちが安全で楽しい保育が出来るようにしていきたいと思います。今年度もよろしくお願ひ致します。少しずつですが前年度の2月からの行事の様子をお伝えします。

まめまき

2月3日は「節分の日」にちなんで、保育園でも豆まきを行いました。今年度は鬼と綱引きのゲームをして楽しんだり、豆をまいたりして過ごしました。



豆まきが終わってからは、みんな歳の数だけ豆を食べたり鬼ランチも食べて体の中にある鬼を楽しく美味しく追い払いました。

避難訓練



今年も2月に総合避難訓練を行いました。毎月行っている避難訓練ですが、今回は消防署から予防課の方に来園していただき、普段の子どもたちの避難訓練を見てもらったり、保育士の通報訓練や消火訓練もしていただきました。子どもたちや保育士も毎月避難訓練に真剣に取り組んでいます。消防署の方が来られるだけで身が引き締まり、いつも以上に子どもたちも保育士も真剣でした。



避難訓練が終わった後は、消防車を見学させてもらったり、乗せてもらったりして楽しみました。火事や地震などいつ災害が起きるかわからないので、園で起きた時は子どもたちを守るように、これからも真剣に子どもたちと保育士と一緒に訓練をしていこうと思えました。

ひなまつり会

3月3日にひな祭り会をしました。女の子の節句という事で、全クラスの子の女の子と一緒に雛様になった気持ちで舞を踊ってくれました。見ている女の子は静かにうっとりとして見ていたのが



印象的でした。お雛ランチもひし餅の形をした綺麗なお寿司で楽しい行事になりました。

お別れ遠足

1年間共に過ごしたお友だちや保育士と一緒に、小さいクラスは近くの公園にお散歩に、4歳・5歳児は卒園でお別れということもありラクテンチまで遠足に行ってきました。

歌いながら歩き、菜の花やサラサラ流れる小川を見ながら、昨年4月に入ったまだまだ幼かった頃の子もたちを思い出し、1年間の成長に少し胸が熱くなった保育士たちでした。

4・5歳児はラクテンチでお弁当を食べ、クラフト体験をしたり乗り物に乗ったりして、お友だちや保育士とた

くさんの楽しい思い出が出来た一日でした。



卒園式

先日、26年度の野口保育所の卒園式が行われました。今年には12名の子どもたちが幼稚園や小学校にあがる期待と喜びを胸に元気いっぱい野口保育所を巣立って行きました。子どもたちがどこの場所でも元気に頑張ることを願って、応援したいと思います。



大型遊具登場

3月初めから工事にかかっていました木製の大型遊具が3月中旬に完成いたしました。

この遊具は野口保育所の立地に合わせた世界に一つだけの完全オリジナルの遊具です。子どもたちが冒険しながら逞しく育っていくことを願っています。皆さんも一度観に来てくださいね。



里親になりませんか？



子どもの育ちの中で大切なこと...それは、子どもたち一人一人を見つめ、寄り添い、愛してくれる大人がそばにいることです。未来の社会を担う子どもたちを社会で守り、一緒に育てていきますか。

「新しい絆」を求めています！

子どもたちがあたたかな家庭で暮らしているよう大分県では里親になってくださる方を募集しています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

里親とは...

保護者の病気や経済的な事情などさまざまな理由により、家族と一緒に生活することが難しい子どもを自らの家庭に迎え入れて養育する方のことです。

おもに、養育里親と養子縁組希望里親の2種類の里親があります。一定の研修を受けたあと、里親として登録されます。

いろいろな里親さんを求めています

- 短期間(数日から数週間程度)養育する里親
 - 子どもが学校を転校しなくてもいいように同じ校区の子どもを養育する里親
 - 乳幼児から長期で養育する里親
 - 乳幼児や小学生を短期で預かる里親
 - 中高校生を養育する里親
 - 養子縁組を希望する里親
- 県内のたくさんのご家庭が里親家庭として登録していただくことで、子どもたちの生活の場所の選択肢が広がります。

里親 Q&A



Q1 里親って養子のこと？

A 里親にはおもに、養育里親と養子縁組希望里親の2種類があります。養子縁組希望里親の場合は、養子を前提としていますが、養育里親の場合は、養子縁組は行わず、必要な期間(数日~数ヶ月、数年まで様々です)子どもの養育を行います。

Q2 里親の要件ってあるの？

- A 里親になるには特別の資格や経験は必要ありませんが、おもな要件として以下のものがあります。
- 子どもの養育についての理解や熱意、愛情をもっていること
 - 心身ともに健康であること
 - 経済的に困窮していないこと
 - 里親になることに家族が同意していること
 - 子どもを養育する居住スペースがあること
 - 必要な研修を修了していること
 - 里親希望者および同居人が欠格事由に該当しないこと
- 欠格事由：成年被後見人または被保佐人、禁錮以上の刑を受けた者、児童虐待を行った者など
- 最終的には「子どもを安定して養育することができる環境か」ということを、県の児童福祉審議会で総合的に判断することになります。

Q3 里親に年齢制限はあるの？

A 養育里親の場合は、具体的な年齢制限は設けていませんが、委託見込み期間や里親の年齢は子どもを委託する際に考慮します。短期委託の場合もありますので、30代~60代まで幅広い年齢層の方が里親家庭として活躍されています。

Q4 共働きでもいいの？

A 基本的には問題はありませんが、親から離れて暮らすことになった子どもの心のケアの視点にたつと、子どもの年齢によっては家庭に迎えて一定期間は子どもと向き合い、じっくりと養育できる態勢を整えることが望ましい場合があります。そのため、共働きの方の場合、委託される子どもの年齢や状況が限定される場合があります。

Q5 単身でも里親になれるの？

A 基本的には可能です。ただし、養育里親の場合は、現実に子どもの養育と生計維持が可能であること、子どもの養育に関する知識や経験を有すること、養育の支援者が身近にいることなど、子どもを適切に養育できることが要件となります。

Q6 里親になる手続きは？

A まずは児童相談所にご相談ください。里親を希望される方と面談をして詳細な説明をします。その後、家庭訪問や必要な研修(講義2日間、施設実習2日間)を受講していただき、県の児童福祉審議会で審査を経て、里親登録となります。

Q7 養育にかかる費用はどうなるの？

A 生活費、教育費、医療費などが公費で支給されます。また、養育里親には、里親手当も支給されます。

Q8 養育に悩んだら？

A 児童相談所の担当者にご相談ください。児童相談所では、委託されている子どものカウンセリングや一時預かり、家事援助などの支援のほか、養育スキル等を学ぶために様々な研修を開催しています。また、児童相談所だけでなく、里親サロンで他の里親さんと養育の悩みや喜びを共有したり、児童養護施設や乳児院等の里親支援専門相談員に相談することもできます。

Q9 賠償保険はあるの？

A 委託されている子どもが人に怪我をさせた時や、他人の車などに傷をつけてしまった時などに対応できる全国里親会の里親賠償保険に加入していただいています。

Q10 里親会はどんな活動をしているの？

A 里親が孤立しないための仲間づくりや委託されている子どもたちと一緒に楽しめる活動、研修を行っています。里親だけでなく、委託されている子どもの仲間づくりの貴重な機会にもなっています。



問い合わせ

大分県中央児童相談所 (里親担当) TEL 097-544-2016

〒870-0889 大分市荏隈5丁目 FAX 097-546-1399

2014年度1~3月職員の内勤

採用

1月1日付

● 児童養護施設

藤内 貴章 (児童指導員)

退職

2月28日付

● 乳児院

大石奈央子 (心理担当職員)

3月31日付

● 児童養護施設

中野 妙子 (調理員等)

● 青山保育所

多治見敬子 (保育士・定年)

2015年度新規採用・異動職員

採用

4月1日付

● 児童養護施設

後藤 真平 (保育士)

神野 怜央 (保育士)

衛藤 彩香 (児童指導員)

● 乳児院

小畑 暢子 (心理担当職員)

緒方れい香 (保育士)

永瀬 霜子 (看護師)

宮野 良子 (保育士補助)

河野 眞美 (調理員等)

● 青山保育所

山宮 由華 (保育士)

異動

4月1日付

● 児童養護施設 (野口保育所より)

帆秋 堅太 (保育士)

● 青山保育所 (児童養護施設より)

城 まり (保育士)

● 野口保育所 (青山保育所より)

後藤 亮平 (保育士)

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。

前回より、児童養護施設の子どものための卒園後の進学等を重点的に支援する目的で『自立進学資金』の枠を設けました。

本年度も皆様のの上に神様の豊かな祝福がありますようお願いいたします。

2015年1月1日より2015年3月31日迄

2015年 賛助金

- 愛燐幼稚園様 大分市
- 安部 静子様 大分市
- 安部 伸子様 大分市
- 伊藤恵美子様 堺市
- 岩田 哲也様 大分市
- 江川 朱美様 大分市
- 岡口 文明様 大分市
- 小郷 晶子様 別府市
- 梶原 康弘様 大分市
- 川村 隼秋様 熊本市
- 木村 洋子様 大分市
- 國方 智子様 別府市
- (有)コーワ精起様 東京都
- 匿名様 別府市
- 永尾 福康様 別府市
- 首藤 和子様 熊本市
- 谷本よう子様 宇佐市
- 田原 明紀様 白杵市
- 津田 眞五様 大分市
- B混記念合唱団クルールあおやま様 別府市
- 平川 俊助様 由布市
- 平野八郎・紀美代様 別府市
- 福岡中部教会様 福岡市
- 福田美代子様 大分市
- 別府不老町教会様 別府市
- 帆足 宗次様 別府市

2015年 一般寄付

- 堀 直様 西宮市
- 松本 常圃様 別府市
- 三浦喜美子様 大分市
- 南 範子様 中津市
- 村津 忠久様 別府市
- 門司大里教会様 北九州市
- 矢永 尚士様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市

あすなる会会長古森弘美様 北九州市

井口 順子様 大分市

岩切 義和様 大分市

大分教会様 大分市

大分地区教会伝道部様 大分市

大分県共同募金会様 大分市

(株)太田旗店様 大分市

太田 佳子様 大分市

真愛幼稚園様 別府市

匿名様 別府市

長野 哲也様 別府市

豊和銀行従業員組合様 大分市

三石 太江様 宇佐市

2015年 自立進学資金

- 匿名様 別府市
- 土谷 良泉様 豊後大野市
- 堤 峰子様 国東市
- 匿名様 別府市
- 松本 常圃様 別府市

2015年 特別物品寄付

- 新入学名入り鉛筆 明石文昭堂様
- もち米等 あすなる会会長古森弘美様
- 缶パン・お菓子等 安部勝之様
- 学習参考書 安東秀典様
- パソコン 糸永隆一様
- ポンカン 江藤眞幸様
- 百科事典 大津勲様
- 文具 大野印刷(株)様
- 靴等 大原智子様
- 石鹸・タオル等

緒方町女性教職員退現職協会様

賛助会員募集

年会費、一〇千円、但し、何口でも、分割可。

ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。

賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌『栄光園だより』を送付させていただきます。



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

編集後記

栄光園は事業開始後63年目に入りました。この間多くの方々のご支援により今の施設があります。創立当時は原野であったこの場所も一時は畑地として開墾され、その作物が子どもたちの食卓を飾った時代もありました。その後畑地はグラウンドとして整備され、周囲には別府中央ライオンズ様の温かい支えによって桜が植樹されました。1973年1月5日のことです。40年を経て、今では桜の名所と言っても良いほどになりました。今年には地球温暖化のせいにか3月末に満開を迎え、園全体が華やかなムードを醸しております。皆様にも楽しんでいただきたいと「栄光園グラウンドお花見開放」のご案内を地域にもご案内いたしました。今年が初めてでしたのでお花見に来られる方は少なかったのですが、桜は年度の区切り、心の節目も大事にしたいと思っております。(敏)